

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野 (2/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
みえライフイノベーション総合特区 (三重県)	4.0	4.8  <u>進捗度</u> ・統合型医療情報データベースの活用 100%  ・ヘルスケア分野の製品・サービスの増加 111%  ・ヘルスケア産業の振興 159%  ・ヘルスケア分野企業(第2創業含む)及び研究機関の立地件数(累計) 125%	2.7  <u>規制の特例等</u> ・健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告の実施  <u>財政支援等</u> ・総合特区支援利子補給金 等  <u>地域独自の取組</u> ・医療情報利活用推進事業費補助金  ・みえ経営向上支援資金 等	4.2	<p>・統合型医療データベースの活用、みえライフイノベーション推進センター(MieLIP)や三重大学を中心として産官学の連携が進み、ヘルスケア分野の製品・サービスの創出、新市場開拓が着実に進展している。新製品の開発・販売のみならず地域経済にもよい影響をもたらしていることが高く評価できる。</p> <p>・MieLIPによる成果であるヘルスケア分野の製品・サービスの創出に伴う新規雇用創出数については、県等の地域独自の支援事業によって今後より成果を期待できる。</p> <p>・統合型医療データベース事業に関しては、データの質の担保と課題設定と課題解決への迅速性が求められる。データマイニング技術に精通した人材等の力強い関与が求められる。また、今後の維持・管理など持続性を高める方策の検討が求められる。</p> <p>・既に目標を達成している数値目標(3)－②「ヘルスケア分野の製品・サービスの創出に伴う新規雇用創出数」及び(4)「ヘルスケア分野企業(第2創業含む)及び研究機関の立地件数」については、目標の上方修正や新たな評価指標の検討が必要である。</p> <p>・企業立地等の成果を分析する際に、MieLIPの県内7か所の設置に対応した圏域間での評価が必要。今後は、そのような評価視点の導入を期待。</p>